

統合移転が一段落した今、次に解決すべき問題は山積している。今回はその中からキャンパス内交通問題、私費留学生支援の問題を中心にお尋ねした。聞き手は安藤広報委員長と松尾広報委員。

広報委員=本誌では学内交通問題を特集することにして、四月三十日に学生諸君との座談会を行いました。そのなかでも関心の高かった、慢性化した駐車場問題についての見通しをお聞かせください。

学長=将来的には立体駐車場が必要となるが、他大学に例が無く、予算が取りにくいので、自前でやることになるだろう。本年より新入生には駐車を規制することとしたが、近くに住む学生や教職員の方々も自転車やバイクなどを積極的に利用して、駐車場問題の解決に協力してほしい。

その際、自転車に広大のステッカーをはることなどを義務づければ放置自転車は減り、仮に放置されても、責任の所在が明らかとなる。

駐車場を有料化するという可能性はあるのでしょうか。

今後、ゲートを作り、有料化することも検討する必要があると考えていた。これまで開かれた大学といふことでゲートを作らなかつたが、キャンパスの現状からすると考え方直す時期が来ているかも知れない。

ただこの場合、ゲート付近では交通渋滞が起る可能性もあり、特に朝は渋滞するかもしれない。あるいは夜だけでもゲートを閉めて規制することを考えられると思う。私としては、物理的なゲートの有無と「開かれた大学」という理念



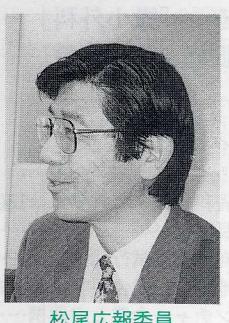
安藤広報委員長

の奨学金受給率は現在八六%と聞いています。これからは留学生全員に奨学金を給付できるようにしたい。現在、年度末を目指して広島大学支援財団の設立を準備中であるが、留学生の修学援助や教職員の海外渡航援助等に積極的に取り組みたいと思っている。

また、平成十一年の広島大学開学五十周年を契機として、この財團をさらに充実させるためにも地元の企業や卒業生にもご協力いただきたいと思っている。私として

は、この財団が次世紀を担う若者を支援するために有効に活用されることを望んでいる。

その他、国際交流推進のために考えておられることがあればお聞かせください。



松尾広報委員

財団設立が力ギか！

キヤンバス内交通問題と私費留学生支援策

学長インタビュー
No.16



とは、本来関係ないと思っている。具体的には交通問題対策委員会と施設整備委員会等で考えてもらう必要がある。

広島大学は国際性のある大学をめざして、多数の留学生を受け入れ国際交流に努力してきました。しかし私費留学生の中には、現在も厳しい生活を強いられている人が少なくないと聞きます。今後の留学生への支援体制についてお聞かせください。

額はさまざまであるが、留学生

ても思い出してもらえるような大学にしたい。

そのためには将来にわたって残るものが必要で、木を植えることを考えている。現在放射光科学研究所センターの敷地が整備されつつあるが、そこにヤマツツジが二百本ほどあつた。それらを理学部植物管理室に移植し、キャンパス内の自然の残っている場所に植える予定である。具体的には施設整備委員会と相談しながら決めていくが、教職員、学生、卒業生も、自分たちの手で美しい大学を創り上げるという気持ちを持つてほしい。

学長はハーデスケジュールをこなすかたわら、出勤前にはゴルフの打ちっ放し一五〇球と語学の勉強を、帰宅後は奥様との散歩を五千歩、バイオリンの練習一時間を十年來の日課とさせていている。よく続くものだと感心するとともに、インタビュー中にもアイデアが次から次へ出てくるのに驚く。どうもその秘訣は好奇心と遊び感覚で何事も楽しむことにあるらしい。

最初は少し緊張したが、インタビューの間中私たちも楽しませてもらつた。一過性の鬱うつかりそうなときは、学長室を訪れるだけで薬は不要かもしれない。

最後に広島大学の環境整備についてお聞かせください。

これからの大学は美しくなければならぬ。大学を出ても懐かしく思い出してもらえるような大学にしたい。特に、留学生が帰国し

日時 平成八年五月一日(水)
場所 東広島キャンパス
学長執務室